

## フライブルク大学との国際交流の歴史と現在

名大は、57の国・地域の大学等と152の大学間協定・283の部局間協定を締結しています（2018年5月1日現在）。その中で、最も古くから国際交流を行っている大学の1つが、ドイツのフライブルク大学です。

名大とフライブルク大学（以下、フ大）の学術交流は、1972（昭和47）年に両大学の経済学部の間で始まったとされています。まもなく両大学経済学部の共同研究会が組織され、学術交流が進展していきました。その後の学術交流も、経済学部の共同研究という形で行われました。86年には正式に部局間協定を締結しています。この時、共同研究のフ大側の中心であったダムス教授には、名大初の名誉博士号が授与されました（写真1）。学生交流の面でも、文部省の学生国際交流制度が始まった1972年から、両大学の経済学部が相互に学生を派遣し合うようになりました。

2000（平成12）年には、名大医学系研究科とフ大医学部の間で学術交流・学生交換に関する協定を締結し、

臨床実習を目的とした学生交換プログラムが始まりました。そして翌2001年には、大学間の学術交流協定が成立するに至りました。2005年には、法学研究科がドイツ南西部のフライブルク市に「フライブルク大学における名古屋大学ビジネス訴訟研究所」を設置しました。

そして2010年には、ビジネス訴訟研究所を基盤に全学的海外拠点として、フ大に名古屋大学ヨーロッパセンターが設置されました。2014年には、さらなる学術交流の促進を目指して、両大学が学術交流推進に関する覚書を取り交わしました。2015年度からは、両大学の高等研究院によるジョイントフェロウシッププログラムを実施しています。

学生交流については現在、短期留学生の交換、フ大での各種短期研修（夏季語学研修、経済学部のサマープログラム、全学教育科目と連動した春季研修）、国際連携総合医学専攻による共同学位プログラムなど、多くの取り組みが行われています。



- 1 名大で行われたダムス教授への名誉博士号授与式（1986年）。飯島宗一総長（写真右）は、医学部講師の時にフライブルク大学へ留学した縁があった。この頃、名大の海外の大学との学術交流協定はまだ26協定であった。
- 2 名古屋大学ヨーロッパセンターの開所式（2010年5月）。中央右が当時の濱口道成総長、その右が渡辺芳人副総長（現理事・副総長）。
- 3 フライブルク市のイベントで、ドイツ語で日本文化を紹介する名大生（全学教育科目「欧州現代事情I」の短期研修）。
- 4 フライブルク大学（正式にはアルベルト・ルートヴィヒ大学フライブルク）。1457年に創立されたドイツを代表する大学の1つで、これまで19名に及ぶノーベル賞受賞者を輩出している。同大学は、名大が事務局を務めるAC21（国際学術コンソーシアム）のメンバーでもある。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

### 名古屋大学基金のご案内

名古屋大学が優れた人材輩出や世界的な研究成果により、今後も日本や地域に貢献し続けるには、安定した独自財源が必要です。「名古屋大学基金」はその基盤であり、皆様からのご寄附を、さまざまな事業に活用させていただきます。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ご寄附のお申込み、お問い合わせはDevelopment Office（DO室）あて（電話052-789-4993、Eメールkikin@adm.nagoya-u.ac.jp）にお願いいたします。

詳しくはホームページをご覧ください。

名古屋大学基金



<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/kikin/>

アクセスはこちらから▶

### 特定基金

名古屋大学基金の中には、研究推進や人材育成など、支援目的を特定してご寄附いただける事業もご用意しております。

